

好生館だより

KOSEIKAN DAYORI

2012.9

第16号



七夕会（5階病棟）

- 理事長・館長：ごあいさつ ①
- 「県民公開講座」を開催します！ ①
- 診療科紹介：呼吸器内科、呼吸器外科 ②
- 看護部だより ③
- 健康講座：地域連携と感染対策 ④
- 病棟担当薬剤師の活動について ④
- 豆知識：果物のこと ⑤
- 知っていますか？ 検査の話：血液のがん ⑤
- 緩和ケアチームがJPAPオレンジサークルアワード
特別賞を受賞しました ⑥
- 院内がん登録 ⑥
- 接遇向上に取り組んでいます ⑥
- 新任医師の紹介 ⑦
- 外来医師一覧表 ⑦



地方独立行政法人 佐賀県立病院好生館

〒840-8570 佐賀市水ヶ江一丁目12番9号
TEL 0952-24-2171 (代表) FAX 0952-29-9390
<http://www.koseikan.jp/>

ごあいさつ



理事長
十時 忠秀

「新病院の名称」が決まりました。

佐賀市嘉瀬町に現在建設中の新病院は、これまでの佐賀県立病院好生館の歴史と伝統を礎とし、平成25年5月7日を開院日として、新たな地で新しい施設のもとで、新たなスタートを切ることになりました。

これを機に新病院にふさわしい名称を公募しました。県内外から255点が寄せられました。新病院名称選定委員会では、佐賀大学医学部附属病院と並び県内の医療拠点で、地域医療のセンター的な役割を端的に表現している『佐賀県医療センター好生館』が選ばれ、その後開催された平成24年度第3回理事会で異議なく承認されました。なお、名称を変更するためには定款を変更する必要があり、今後佐賀県議会の議決を経て、総務省の認可をうけることとなります。

新病院の名称について、県民の皆様はじめ多くの皆様から沢山のご応募をいただきありがとうございました。

ごあいさつ



館長
橋本 等

先日、市村記念体育館で開催された「伊能図全国巡回フロア展in佐賀」を見学しました。江戸時代の地理学者、伊能忠敬（1745～1818）は日本人に馴染みのある名前です。簡単な測量計と気の遠くなる足でかせいだ距離の結果ですが、今の地図と重ね合わせてもその精度には驚かされます。好生館が移転する嘉瀬を探すと、チャントありました。

古くはオランダ商館医のケンペル、シーボルトも嘉瀬川、嘉瀬橋を渡って長崎街道を江戸に上った記録があります。そう言えば日本地図を持ちだそうとしたシーボルト事件もありました。

昔からあった嘉瀬と考えると親しみ深くなりました。本年末に竣工予定で、建て物の外の梯子なども取れて全容が見れます。中には入れませんが何かの折にご覧下さい。

秋の気配を感じる今日この頃ですが、体調管理に御留意下さい。

「県民公開講座」を開催します!

平成24年度 県民公開講座

『救急医療をもっと学ぼう!』

～ケガをしたときに慌てないために～

日時 平成24年 10月20日(土) 13:00～16:15

会場 メートプラザ佐賀

入場 無料

第1部 13:00～14:00 【参加型企画 Part1】

- ①メタボ測定コーナー 【参加型30分】
体重・身長・体脂肪測定・
腹囲測定・血圧測定
血糖測定・HbA1c測定
- ②「動脈硬化は大丈夫??」コーナー
脈波測定(2台) 【参加型30分】
頸部血管エコー(2台) 【参加型30分】
※あなたの血管年齢をチェックしませんか?

第2部 14:00～15:15 【講演】ナビゲーター/林田 薫(好生館 副館長)

- ①「救急車を利用する時に覚えておいてほしいこと」
救急科医長 小山 敬
- ②「ケガをしたときに慌てないために」
・救急時初期対応法について
・救急救急システム「iPad」を活用して
救急科医長/救急科医長 江頭 春彦 氏
- ③「防ごう障害! 守ろう生活!」
外傷センター長 野藤 勇

第3部 15:15～16:15 【参加型企画 Part2】

- ①心肺蘇生法講習
AEDを使用した実演
(15～16名程度)
ドクターもやってみよう!
- ②相談コーナー
・健康相談コーナー 診療科医
・栄養相談コーナー 栄養師
・医療相談コーナー 医療ソーシャルワーカー
・お薬相談コーナー 薬剤師

主催/地方独立行政法人 佐賀県立病院好生館
相談支援センター 地域医療連携係

お問い合わせ
TEL:0952-28-1269 FAX:0952-28-1267
Eメール: hikirenke@pref.saga.lg.jp
お問い合わせは、できるだけFAXでお問い合わせ下さい

好生館は、地域医療支援病院として県民向けの「県民公開講座」を毎年開催しています。

10月20日(土) 13:00よりメートプラザ佐賀にて『救急医療をもっと学ぼう!』～ケガをしたときに慌てないために～と題して平成24年度県民公開講座を開催いたします。

今回は、救急医療をテーマとして、救急科・外傷センター医師より疾患やその対応について、また、救急の現場で活躍されている佐賀消防署・江頭春彦救急係長に「ケガをしたときに慌てないために」と題して講演をしていただきます。

参加型企画として【Part 1】では、メタボ測定コーナーや脈波測定・頸部血管エコーを設けています。今回は血糖チェック・HbA1cチェックも実施いたします。なお、測定機器の台数に限りもあり人数制限があります。

【Part 2】では、AEDを用いた心肺蘇生講習会を開催し、その実際と一緒に体験してもらえたらと考えます。相談コーナーでは、それぞれの相談に対応いたします。皆さまの参加をお待ちしております。

問合せ先：相談支援センター地域医療連携係 (Tel：28-1495)

【診療科紹介】呼吸器内科



部長
岩永 健太郎

呼吸器科を志望する若手医師を求めています！

私たちが扱う疾患は、肺癌をはじめとする胸部の腫瘍性疾患、肺炎や肺結核といった呼吸器感染症、気管支喘息、COPD、様々な原因による間質性肺疾患、気胸・胸水貯留等の胸膜疾患など多岐にわ

たります。我が国では高齢化に伴いCOPD・呼吸器感染症、肺腫瘍などの呼吸器疾患が急増しており、肺癌や肺炎は日本人の死因で毎年上位を占めており、今後は喫煙が原因とされるCOPDによる死亡が増加すると予想されています。このように扱う疾患は多岐にわたり患者数も多いのですが、現在は3名と少ないスタッフをやりくりしながら入院と専門外来での再来患者および新患・紹介患者の診療にあたっています。

当科では悪性腫瘍が疑われる症例については、検査部と病理医の協力により気管支鏡検査施行時にその場で迅速細胞診を行い診断率の向上を目指してい

ます。また気管支鏡によるアプローチが困難な症例についてはCTガイド下肺腫瘍生検を実施しています。

胸水貯留症例に対しては積極的に局所麻酔下胸腔鏡検査を行なうようにしました。従来、胸腔鏡検査は全身麻酔下で行なう検査でしたが、最近は全身麻酔よりは低侵襲の局所麻酔下でも実施可能となり有用な結果を得ています。

治療面では特に肺癌症例については集学的治療が必要な場合は呼吸器外科グループや放射線治療医、腫瘍内科医と綿密に連携をとりながら診療にあたっています。またLOGIK(Lung Oncology Group in Kyushu)、阪神・佐賀共同がん研究会のメンバーとして積極的に臨床試験に取り組んでいます。またCOPDなどの慢性呼吸不全症例に対しては理学療法士や看護師、薬剤師、栄養士と協力して呼吸リハビリや在宅酸素療法の導入、急性増悪の予防、栄養指導、服薬指導などチーム医療を行っています。

【診療科紹介】呼吸器外科



部長
光岡 正浩

「まごころこめて」が私達の理念です！

【新体制の紹介】呼吸器外科は4月から私(24年目)、寺崎(20年目)、坂田(6年目)、岡本(4年目)の4名に増員して頂きました。3月までの二人体制期間には院内外からのコンサルトに十分対応でき

ない場面もありご迷惑をお掛けしましたが、現在はこの問題が大きく改善されました。

【当科で扱う疾患】原発性肺癌、転移性肺腫瘍、気胸、膿胸、縦隔腫瘍、胸部外傷、中枢気道狭窄症などが主な疾患です。肺や胸腔は身体のフィルターにあたる臓器なので様々な疾患が影響します。胸水ドレナージ依頼や確定診断困難な疾患に対する生検依頼も多くご紹介頂いています。

【標準的治療】まずは標準的治療を安心して好生館でご提供できるように心がけています。Stage I, IIの肺癌に対する外科治療、気胸に対する確かな治療法の選択などです。多くの症例に胸腔鏡を使用します。

【拡大手術】周囲臓器浸潤腫瘍や重複がん症例などでは、エビデンスだけでは語れない手術適応のボーダーライン症例が数多くあります。症例によっては心臓血管外科や麻酔科の力を借りながら拡大手術にも積極的に取り組んでいます。

【特殊技術の推進】早期肺癌に対するアプローチ、より有効なドレナージ法の検討、硬性気管支鏡を使用した呼吸器インターベンション治療、縦隔鏡検査など幅広い技術に対応かつ教育できる体制を整えています。

【呼吸器合同カンファランス】呼吸器外科・呼吸器内科・放射線科・病理で行う月1回の合同カンファランスはレベルの高いものだと思自しています。セミクローズドの会ですが院外から出席される先生もいらっしゃいます。

【チームワークと理念】医療ではチームワークが極めて大切です。互いにコミュニケーションをとる時間も大事にしています。そして、真心をこめて人と接することが全てを円滑に運ぶ手段だと考えています。

看護部だより

平成24年度「ふれあい看護体験」

去る7月30日(月)県内の高校生20名を迎え、「ふれあい看護体験」を行いました。看護体験を通し患者さんと触れあうことで看護への理解と関心を深めてもらうことが目的です。当日は、病棟での看護体験、病院食の検査、新病院の説明、正しい手洗い、看護師との意見交換会を行いました。参加した高校生からは、「ユニフォームを着ることができ嬉しかった」「患者さんからありがとうと言ってもらい、とても嬉しかった。看護師になりたいという思いが強くなった」「新病院は素晴らしいと思った。実際に働いてみたいと思った」「日頃の手洗いで、汚れが落ちていないことがわかった」などの多くの感想がありました。看護師への憧れが、ふれあい看護体験を行ったことで、より具体的になったようでした。看護部だけではなく、栄養管理科や新病院建設課の協力を得て、病院全体で高校生を迎えることができ有意義な一日でした。





ストレスマネジメント研修

平成24年度看護部院内研修の一環として、新卒看護師28名と事務職員4名が参加し、ストレスマネジメント研修を実施しました。午前中は、ヨガ体験を行い、午後は佐賀城本丸歴史資料館見学、恵比寿八十八箇所巡りスタンプラリーをしながら病院周辺を散策する内容でした。今年で好生館が水ヶ江にある最後の年になるということで、好生館の歴史や病院周辺のことを知ってもらおうと企画した研修です。日常業務を離れて、ヨガで心身をリラックスした後に、歴史や地域から好生館を知ることができた一日でした。



平成24年度 新認定看護師誕生(平成24年6月24日取得)

氏名/認定分野	メッセージ
森 直美 緩和ケア	 がんと診断された患者・家族に早期より関わり、全人的苦痛を踏まえ最良な緩和ケアを目指します。また、QOLの維持・改善と問題解決に向けて、チーム活動でも関わっていきたいと考えています。
永吉 久美子 救急看護	 根拠を持ったフィジカルアセスメントができ、迅速かつ確に技術・ケアの提供ができる看護師を目指し実践を積んでいきたいと思ひます。



感染管理
認定看護師
富田 泉

現在の医療において、新興・再興感染症の発生と拡散、特に薬剤耐性菌の増加は大きな問題となっています。有効な感染管理を講じるためには、院内のみならず地域レベルでの迅速な疫学情報の入手と、緊密な施設間の連携が重要です。

平成24年度の診療報酬改訂により、感染防止対策に関する加算が一部改訂されました。

これまでの感染防止対策チームの評価が、医療安全対策とは別に評価（加算）されることとなり、各医療機関における感染防止対策の充実、推進を図ることが目的とされています。

また、これまでそれぞれの医療期間で行われていた感染対策を、地域の医療機関同士で評価し合うことにより、現状を客観的に把握するとともに、より感染対

策を強化する事が期待されています。

具体的には、施設基準を満たす医療機関は、病院の規模や感染防止対策チームの人員要件に応じて、加算1あるいは加算2を算定できます。加算1を算定する医療機関は、感染防止対策に関するカンファレンスを開催する事、また、加算2を算定する医療機関は、これらのカンファレンスへ参加することが必要とされています。

カンファレンスの内容については、①各医療機関における薬剤耐性菌等の検出状況 ②感染症患者の発生状況 ③院内感染対策の実施状況（擦式アルコール製剤使用量）④抗菌薬使用状況などの情報共有、意見交換を行い地域全体で感染対策に取り組みます。

今後は、地域との連携を進める上で、カンファレンスの内容や医療機関同士のかかわり方などを模索しながら感染対策向上に努めてまいります。

病棟担当薬剤師の活動について



薬剤師
仲 真美恵

現在、薬剤部は病棟薬剤業務に力を入れています。その中の業務の一つに持参薬チェックがあります。具体的には、今年度から救命救急センターを除く各病棟に薬剤師を配置し、プログレスノートに持参薬情報を入力するようになりました（タイトルは「持参薬」）。入院患者の処方歴（他院からの処方薬や当院外来処方）を薬剤師が病棟にてお薬ノートや薬の説明書等を用いて確認し、PDFファイルに持参薬（処方薬）確認書として入力しています。当院に採用が無い場合は、当院で採用されている同一成分又は同種・同効薬の薬剤名を記載しています。

次に、患者・家族への問診を行い薬剤の管理状況、副作用歴、市販薬や健康食品の使用状況などの情報収集を行い、薬剤管理表を入力しています。病棟薬剤師と看護師で、患者が持参薬を含めた処方薬の自己管理が可能であるかの評価も行っています。

特に、検査や手術目的で入院された場合は、抗凝固薬が指示通りに中止されているか、検査当日の降圧剤、SU剤、インスリンなどの服用状況について確認し、医師や看護師へ情報提供を行っています。入院中は必

要に応じて薬剤の説明も行い、抗がん剤を投与される方には薬剤部で作成した説明書を用いて投与スケジュールや副作用、副作用への対応策について説明しています。またチーム医療にも積極的に参加し、外来化学療法、緩和ケアチーム、NST、ICT、褥瘡チーム、糖尿病教室や心臓リハビリ教室にも薬剤師が関わり、医療の質の向上に貢献できればと思っています。

薬剤師が病棟やチーム医療に積極的に関わることで、病院全体のリスク回避や業務の効率化を図ることができるようではないでしょうか。今後は薬剤使用状況の把握や退院後も継続して薬剤服用ができるようなサポートにも力を入れていきたいと考えています。

より安全かつ円滑な医療を患者の皆様提供できるような環境づくりを目指し、患者さんや他医療スタッフとの関わりを深めていく所存です。皆様のご支援をお願いいたします。



豆知識 果物のこと



栄養管理長

小根森智子

実りの秋は果物もおいしい季節。梨にぶどうにりんごに柿…、これから出てくるみかんは佐賀も代表的な産地ですね。甘くておいしい果物を口にするとちょっとうれしい気持ちになります。

日本では糖度が高くて甘い果物が好まれるので、デザート的な食べ方になりますが、野菜のような感覚で食べる国もあるようです。果物には、ビタミンCを中心とした各種ビタミンやカリウムなどのミネラル類、フラボノイドやアントシアニンなどのポリフェノール類、疲労回復効果があるといわれるクエン酸などの有機酸、不足しがちな食物繊維など、体の調子を整える成分がいろいろたっぷり入っています。

ただし、果物は「水菓子」と呼ばれることも。甘いお菓子ほどではないにしても、糖分が多く、エネルギーも高めなので食べ過ぎは禁物です。1日に200グラム程度までがよいようです。目安としてりんごなど大きめの果物で1/2個、バナナで1本、うんしゅうみかんで3個程度に当たります。好生館では毎日150グラム前後をお出ししています。また、果物を絞った果汁だけではせっかくの食物繊維がとれないので、そのまま食べるのがおすすめです。

なお、医師からカリウムを控えるように言われている方は、缶詰やコンポートなどの煮た果物を少なめにとりましょう。ビタミンは少なくなりますが、食物繊維はしっかりとることができます。

旬の果物を適量食べておいしく栄養補給しましょう。



知っていますか？ 検査の話 血液のがん



検査部主任技師
平野 敬之

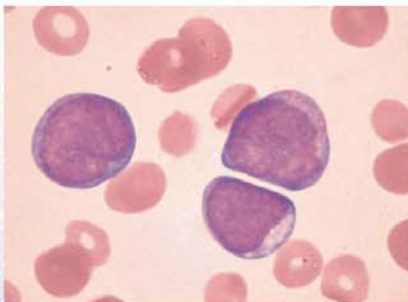
「血液のがん」と聞いて、真っ先に頭に思い浮かぶのが「白血病」でしょうか。では、「血液のがん」とはいったいどんなものかご存知ですか。「血液のがん」とは血液中に含まれている細胞ががん化した病気の総称で、がん化した細胞の種類などにより呼び方が異なります。代表的なものはやはり「白血病」ですが、それ以外にも「悪性リンパ腫」、「多発性骨髄腫」というものがあり、血液のがんのほとんどがこの3つに含まれます。

「がん」は高齢者に起こりやすい病気です。「血液のがん」も基本的には同じですが、若い人にも珍しく

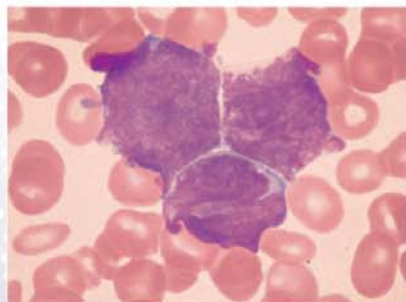
ない病気です。「血液のがん」は、かつて不治の病の代表とされていましたが、現在では治療法の進歩により少しずつ治療可能な病気になってきています。

症状はさまざまですが、代表的なものには発熱や出血、倦怠感、リンパ節の腫れなどがあります。病院では血液検査、骨髄検査などを行い、それらの中に「がん化した細胞」がないかを顕微鏡で調べたり、遺伝子検査、染色体検査などもあわせて行われます。

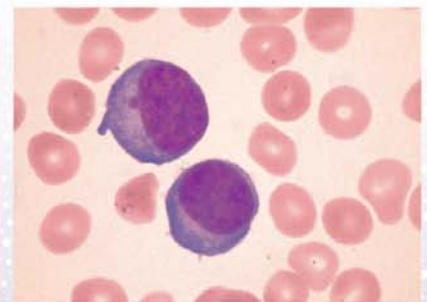
この病気も他の病気と同様、早く見つけ、早く治療することが大切です。気になるときは悩まず、すぐに病院で診てもらいましょう。



① 白血病



② 悪性リンパ腫



③ 多発性骨髄腫



緩和ケアセンター長
小杉 寿文



緩和ケアチームがJPAPオレンジサークルアワード 特別賞を受賞しました

緩和ケアチームとは、がんなどの疾患で身体的、精神的、社会的（経済的問題など）に苦痛や不安を持っておられる患者さんとご家族のケアを行う専門家の集団です。緩和ケア医、精神科医、放射線科医、看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士、医療ソーシャル・ワーカー、理学療法士・作業療法士などで構成されています。JPAP（Japan Partners against Pain）とは正しい痛み治療の普及を目指して医療関係者で設立された任意団体です。毎年、全国の緩和ケアチームの活動に対してオレンジサークルアワードという賞を設けて普及活動をしています。当院緩和ケアチームが評価されたのは①がん治療開始時または早期から緩和ケアチームが積極的に関わること、②院内だけでなく地域ぐるみの地域包括緩和ケアチームの2点を実践していることです。緩和ケアという言葉のイメージは「終末期」のイメージが強く、敬遠されがちですが、抗がん剤や手術などの治療や検査によって痛みや苦痛、不安があればそれを緩和することによって安心して医療を受けることができます。また、がん医療は一つの病院だけで完結することは不可能であり、かかりつけ医や在宅医療の専門家や介護の専門家とも協力して緩和ケアチームが積極的に病院外にも出かけていることで、緩和ケアの普及と地域連携を目指しています。



診療情報管理士
光石 はつみ

院内がん登録

全国のがん診療連携拠点病院では、「標準登録様式」に基づいた院内がん登録を行っています。院内がん登録ってご存知ですか？

院内がん登録とは、病院を訪れた患者さん（外来・入院を問わず）の全てのがんについて、診断・治療・予後に関する情報を集め、整理・保管し、集計・分析を行う仕組みです。

がん登録を行うことで、何人の患者さんが、どのような病態（がんの部位、進行度）で、どのようにして受診（検診発見、紹介、直接受診）し、どのような医療を受け（診断のみ、入院治療、緩和医療）、どうなったのか（治癒、外来治療継続、転院、死亡）を知ることができます。

好生館では2002年7月から継続的に登録業務を行っており2011年までに9258件の症例を集めています。これまでの登録内容を比較しますと胃がん、大腸がん、肺がん、肝

がん、リンパ腫・血液がんが割合は異なるものの毎年上位を占めています。2009年からは前立腺がんが急激に増えております。これはPSA検査の普及により早期のがんが発見されるようになったことも一つの要因です。

このように収集された情報は当院におけるがん診療の実態を把握しがん診療の質の向上とがん患者さんの支援に役立てることが出来ます。

また、国立がん研究センターで毎年行われる全国集計や地域がん登録に報告することにより、地域でのがんの発生数を部位別・病期別・年齢別・地域別に把握でき、地域におけるがん対策の立案や評価に利用され、地域住民に利益が還元されます。

なお、登録に際しては個人情報の保護に細心の注意を払い、適切に管理し確実な業務の遂行に努めております。



副事務部長
大木 夏雄

接遇向上に取り組んでいます 「安心、安全、納得の医療」につながるコミュニケーションを目指して

好生館においては、「安心、安全、納得の医療」につながるコミュニケーションを目指し、接遇の向上に取り組んでいますが、来年5月の新病院のオープンに向けて、これまでの取り組みを充実し、本年度から更に医療コミュニケーション強化活動に取り組んでいます。

医療コミュニケーションとは、「安心、安全、納得の医療」につながる患者さんと職員、職員同士の総合的な関わりであり、その基盤となるのが接遇です。

そして、接遇とは、「相手志向の心と行動（スキル）」であるとされています。また、病院において接遇力の強化を図るためには、職員個々の接遇能力はもとより、ハード面、サービス（業務）システム、情報の共有度などの点検・強化が必要とされています。

具体的には、医局、看護部、患者サービス課などの部署毎に数ヶ月毎に取り組み目標を掲げ、目標達成に向け強化リーダーを中心として実施、到達度のチェック、目標の再設定などを繰り返し、定期的に外部の専門家によるアドバイスを受けながら、レベルアップを図っていくこととしています。

この取り組みを8月から始めており、まずは、全館の目標として「あいさつを徹底する」を掲げ、患者さんへのあいさつ（会釈）、初診時での外来医師による自己紹介、病棟でのご家族等へのことばかけなどの徹底を、職員一丸となって進めています。



新任医師 の紹介

(平成24年7月1日~9月30日)



肝臓・胆のう・
膵臓内科
医師
大座 紀子



糖尿病代謝内科
部長
吉村 達



血液内科
医長
久富 崇

外来医師一覽表

(平成24年9月1日現在)

区分		月	火	水	木	金	
内科	午前	新患 1・3週 2・4・5週	権藤 久司	土居 隆志	吉村 達 近藤 誠司	土居 隆志	松石 英城 吉村 達
		呼吸器 新患 再来	柿野 千穂 森塚 達也	岩永健太郎 柿野 千穂	森塚 達也 岩永健太郎	岩永健太郎 柿野 千穂	森塚 達也 岩永健太郎
		肝臓・胆のう ・膵臓	大座 紀子 大塚 大河	秋山 巧	川添 聖治 大塚 大河	川添 聖治	大座 紀子 秋山 巧
		消化器(胃・腸)	富永 直之	緒方 伸一	渡邊 聡	緒方 伸一	富永 直之
		血液 新患 再来	近藤誠司/久富 崇 松石 英城	松石 英城 久富 崇/権藤久司	近藤 誠司 松石 英城	近藤 誠司 久富 崇/近藤誠司	久富 崇 権藤 久司
		腎臓・透析	大塚 伸	中村 恵	斧沢 幸司	大塚 伸	中村 恵
		糖尿病内分泌	土居 隆志	吉村 達	土居 隆志	吉村 達	土居 隆志
		腫瘍内科 (再診・院内コンサルト)	嬉野 紀夫	嬉野 紀夫	嬉野 紀夫	嬉野 紀夫	嬉野 紀夫
		感染症 (再診・院内コンサルト)	福岡 麻美	福岡 麻美	福岡 麻美	福岡 麻美	福岡 麻美
		膠原病・リウマチ (第2・4金 14:00~)					多田 芳史
外科	午前	消化器・一般 新患 再来	田中 聡也 手術 廣橋 喜美	田中 雅之 手術 佐藤 清治	廣橋 喜美 総回診 岡 健次/篠崎由賀里 白羽根健吾	岡 健次 手術	佐藤 清治 手術 田中聡也/田中雅之 白羽根健吾
		乳 腺					
		呼吸器		光岡正浩/寺崎泰宏 手術		光岡正浩/寺崎泰宏	
		小児外科	生野 猛/田口匠平 手術		吉丸耕一郎	生野 猛/田口匠平	手術
眼科	午前		担当医 (新患のみ) 手術	古賀 隆史 福永由起子 河田 康祐	荒木 理子 手術 担当医(新患のみ)	古賀 隆史 福永由起子 河田 康祐	古賀 隆史 福永由起子 河田 康祐
					手術 (急患のみ担当医)	八並 直子 小野 剛史	手術 (急患のみ担当医)
産婦人科	午前	婦人科	安永 牧生 八並 直子	安永 牧生 八並 直子 宮田 早織	手術 (急患のみ担当医)	八並 直子 小野 剛史	手術 (急患のみ担当医)
		産科	小野 剛史			安永牧生/宮田早織	
小児科	午前		市丸 智浩 熊本 愛子 荒木 薫	西村 真二 力武菜穂子 荒木 薫	市丸 智浩 西村 真二 栗並 樹里	市丸 智浩 力武菜穂子 荒木 薫	西村 真二 磯村 直子 荒木 薫
		午後	アレルギー外来 /予防接種/乳児健診	予防接種	予防接種/ アレルギー外来	アレルギー外来 1ヶ月検診	予約外来
	午後(時間外)	その日の担当が診察します。					
耳鼻 いんこう科	午前	手術	宮崎 純二 恒富 日子 松子 英友	手術	宮崎 純二 恒富 日子 松子 英友	宮崎 純二 恒富 日子 松子 英友	
皮膚科	午前	武下 泰三 北 和代	武下 泰三 北 和代	武下 泰三 北 和代	手術	武下 泰三 北 和代	
	午後 (16:00~)					予約外来(再診のみ)	
泌尿器科	午前		徳田 倫章 諸隈 太 内野 洋志 李 賢 李 賢	徳田 倫章 内野 洋志 李 賢 長沼 英和	手術	徳田 倫章 諸隈 太 内野 洋志 李 賢 長沼 英和	
整形外科	外傷整形外科		前 隆男 竹内 直英	佛坂 俊輔 (新患) 手術	前 隆男 塚本 伸章	塚本 伸章 前 隆男 (新患) 佛坂 俊輔 (再来) 手術	竹内 直英
		関節・一般 整形外科	野口 康男 前 隆男 佐々木宏介		佐々木宏介		野口 康男 佐々木宏介
	脊椎外科	川口 謙一	川口 謙一 上森 知彦		川口 謙一		
	午後	予約再来	予約再来		予約再来		予約再来
放射線科	消化管診断外来				梶原 哲郎	梶原 哲郎	
	画像検査 部門外来	野尻 淳一 (眞武 邦茂) 梶原 寿浩	川野 倫作 (野尻 淳一) 梶原 寿浩	眞武 邦茂 (川野 倫作)	川野 倫作 (野尻 淳一)	川野 倫作 (野尻 淳一) 梶原 寿浩	
	消化管造影	梶原 哲郎	梶原 哲郎		眞武 邦茂	梶原 哲郎	
	放射線治療	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄 (徳丸直郎:午後)	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	
脳神経内科	午前	新患 再来	関 賢太 高島 洋	高島 洋	関 賢太 岩崎めぐみ	岩崎めぐみ 高島 洋	
	午後 (14:00~16:00)				パーキンソン病 外来(予約制)		
脳神経外科	午前	坂田 修治 萩原 直司	萩原 直司	坂田 修治 高口 素史	手術	坂田 修治 高口 素史	
精神科	午前	植木 裕司	植木 裕司	植木 裕司	植木 裕司	植木 裕司	
	午後	植木 裕司	植木 裕司	物忘れ外来	植木 裕司	植木 裕司	
循環器内科	午前		貞松 研二 塩見 哲也	吉田 敬規 岡原 有秀	吉田 敬規 白濱 尚治	古閑 靖章 林田 潔 塩見 哲也 三根 大悟	
		不整脈外来	永元 康嗣		永元 康嗣		
心臓血管 外科	午前	手術	内藤 光三 村山 順一	手術(午前中のみ 紹介・予約:榑木等)	内藤 光三 村山 順一	手術	
緩和ケア科	午前	小杉 寿文 濱田 献			小杉 寿文 濱田 献		
人間ドック	一般	井之口香映子	井之口香映子	権藤 久司	井之口香映子	井之口香映子	
	脳ドック	高島 洋	坂田 修治			高島 洋	
	心臓ドック				榑木 等/林田 潔		